

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 11 章 2～16 節>

1 今の私たちがやっていないことをパウロが命じている？！

ここを読む時にまず考えておきたいことは、パウロがここで命じていることを今私たちはやっていないということです。それでもなお私たちはパウロを重んじます。それはなぜかを考えることが大事な鍵です。

2 今とは違う時代や社会であることを考えて読む必要あり！

聖書に記されている時代や社会は今とは違うのです。その時の「普通」や「常識」は何だったのか、そこから考えなければなりません。当時、礼拝の時に男が頭を覆い、女が覆わないのは、今、男性が短パン・サンダル・サングラスで、女性がトップレスで礼拝に出るようなものだったのです。そんな背景を知らずに読むと、「なんてパウロは保守的なんだ、男女にこんな差別を設けるなんて」と思うかもしれません。

3 パウロは保守的？ そうとは言えない逆の面にも注目！

しかし一方で、パウロは5節で礼拝の中で女性が祈ったり預言したりするのは当然のこととしています。これは、礼拝出席者で大事なものは成人男性で、女子どもは数にも入れなかった当時のユダヤ人の礼拝とは全く違うのです。パウロは当時の周囲の人々と比べるなら、むしろ因習にとらわれない開かれた人だったのです。

4 「創造の秩序」を重んじているようだが、少し違う点あり。

また、パウロは、神はご自分の姿に似せてまず男を造られ、次に女を造られたことに固執し(3, 7-9, 創世記 1, 2 章)、神が造られた自然のままの姿を良しとする(14-16)考え方を持っているように思えます。しかし同時に、私たちが女から生まれる事実にも目を向け、男女のどちらが先かより「全てのものが神から出ている」(12)ことを重んじ、男も女も相手のために必要な存在なのだと述べています(11-12)。

5 信仰者が持つべき考え方、「信仰の秩序」とは？

今私たちはここでパウロが命じているように行っていません。そこから聞き取るべきは、パウロが間違っていたということより、急激に変えることがかえって混乱と反発を生む場合のあること、しかしだからこそ、神様が正しいとされることに向けて焦らず取り組み、着実に変革を起こし続けて行く考え方、「信仰の秩序」が大事だということです！